

2020/03/15

## 「キリストが受けた苦しみ」

「こういうわけで、このように多くの証人たちが、雲のように私たちを取り巻いているのですから、私たちも、いっさいの重荷とまつわりつく罪とを捨てて、私たちの前に置かれている競走を忍耐をもって走り続けようではありませんか。信仰の創始者であり、完成者であるイエスから目を離さないでいなさい。イエスは、ご自分の前に置かれた喜びのゆえに、はずかしめをものともせず十字架を忍び、神の御座の右に着座されました。あなたがたは、罪人たちのこのような反抗を忍ばれた方のことを考えなさい。それは、あなたがたの心が元気を失い、疲れ果ててしまわないためです。あなたがたはまだ、罪と戦って、血を流すまで抵抗したことはありません。」（ヘブル 12:1-4）

罪というと、道徳に反する行いや律法に反する行いをイメージしがちですが、そればかりではありません。「イエスから目を離さないでいなさい」とあるように、神から目を離すことも罪であると聖書は教えます。神が私たちに、「イエスを見上げ、イエスのことを考えよ」と教えているのは、私たちが神からの励ましを受け取り、元気を失わないためです。実は私たちは、イエス様を信じると同時に、新たな罪との戦いが始まりました。なぜなら、イエス様を信じる者に対しては、神のことばを信じないことが罪に問われるようになったからです。

私たちの反抗を忍んで十字架に架かれたイエス様の苦しみを思うとき、罪と戦う勇気がわいてくると聖書は語っています。では、イエス様の受けた苦しみとは何だったのでしょか。十字架につけるほどのユダヤ人の迫害でしょうか。それとも、愛する弟子たちに裏切られた悲しみでしょうか。そうではありません。迫害も裏切りも、そもそもイエス様の言葉を信じるできないことが原因ですから、イエス様が受けた苦しみとは、すべて不信仰によるものです。そして、これは私たち自身が直面する現実でもあります。神の言葉を信じるできないという不信仰によって、私たちは自分自身も苦しみます。

つまり、神のことばを信じるできない不信仰は、キリストを苦しめ、私たちをも苦しめます。ですから聖書は、私たちはキリストを信じる信仰と同時に苦しみをも賜ったと語っています。

「あなたがたは、キリストのために、キリストを信じる信仰だけでなく、キリストのための苦しみをも賜ったのです。あなたがたは、私について先に見たこと、また、私についていま聞いているのと同じ戦いを経験しているのです。」（ピリピ 1:29-30）

「キリストのための苦しみ」とは、正確に訳すなら「キリストが原因の苦しみ」です。イエス・キリストを信じると言いながら、神のことばが信じられないのは、罪に問われます。私たちがしている戦いとは、キリストのことばを信じられるかどうかという戦いです。

神は、「迫害する者を愛しなさい」と言い、「あなたの敵を愛しなさい」と教えます。もし、

実行できないなら、それは神のことばを信じていないということになります。このことが、キリストを苦しめ、自分自身をも苦しめるのです。神のことばを信じ実行するためには、信仰が成長することが必要です。そのために私たちはどうすればよいのでしょうか。

「私は、キリストとその復活の力を知り、またキリストの苦しみにあずかることも知って、キリストの死と同じ状態になり、どうにかして、死者の中からの復活に達したいのです。私は、すでに得たのでもなく、すでに完全にされているのでもありません。ただ捕えようとして、追求しているのです。そして、それを得るようにとキリスト・イエスが私を捕えてくださったのです。」(ピリピ 3:10-12)

私たちが目指すべき信仰は、イエス・キリストが持ってきてくださった永遠のいのちを信じることです。永遠のいのちを信じるとは、ある意味、もっとも困難なことで、死の恐怖を克服することです。ですから、永遠のいのちを知り、この地上で死んだ後も復活して生きることを信じようとする、同時に、不信仰との戦いも始まります。それが、キリストを知ったことで、キリストの苦しみも知るようになったということです。

パウロ自身も、「自分はまだ完全な信仰を持っている者ではない」と不信仰と戦い続けていることを告白し、「なんとかしてそれを捕えようとしている」と言っています。この部分を正確に訳すと、「なんとかして自分がキリスト・イエスに捕えられているところを捕らえようと努めている」という表現になっています。

「イエス・キリストに捕えられている自分を捕える」とは、いったいどういうことでしょうか。イエス様はどのように私たちを捕えておられるのか、確認しましょう。

### 1. 罪が赦されているあなたを捕えている

神はあなたをさばきません。「自分はさばかれるかもしれない」と思うのは、あなたが捕らえている自分自身であって、神が捕えているのは、罪が赦されているあなたです。あなたは、こんな罪深い私が愛されるはずがないと思うかもしれませんが、そうではありません。

### 2. 無条件で愛されているあなたを捕えている

神の目から見ると、あなたはありのままに愛されるべき存在です。この世界では何か秀でていることによって人からの愛情や称賛を得るものです。そのため、多くの人が神様に愛される人になろうとして頑張っています。無条件で愛されている自分を受け入れましょう。

### 3. 復活するあなたを捕えている

イエス様が捕らえているあなたとは、すでに復活したあなたです。そのことを教えるために、イエス様は放蕩息子のたとえを使われました。見えるところはボロボロの放蕩息子を、父親は何も要求することなく受け入れ、ただ最高のものを与えました。神が見ているあなたは、罪を犯してボロボロのあなたではなく、最高のものを受け取るにふさわしい、神の子の姿なのです。

アダムとエバは、エデンの園で、「自分の手でいのちの木からその実を取って食べようとしていた」とありますが、それは自分で自分のいのちを守ろうとしたことを象徴しています。二人は、神からいただく永遠のいのちを信じるができなかったのです。

この後、神は二人をエデンの園から追放しますが、それは罰ではなく、二人の信仰を育てるためです。人は、自分の力ではどうにもならないことに気づかなければ、神を頼ることはありません。絶望がなければ、神に頼るといことがわかりませんから、彼らの信仰を育て、彼らが神の言葉を受け入れ、無条件で永遠のいのちをいただくことができるのだと教えるために、神はあえて愛のムチを使われたのです。

私たちはすでに永遠のいのちを持っています。あとは、それを信じるかどうかだけです。それが重要なのです。私たちが目指すべき信仰はここにあります。私たちが本当に目を留めなければならない苦しみとは不信仰です。

「キリストの中にある者と認められ、律法による自分の義ではなくて、キリストを信じる信仰による義、すなわち、信仰に基づいて、神から与えられる義を持つことができる、という望みがあるからです。」(ピリピ 3:9)

神の義とは、律法の行いによって手にするものではなく、ただ信仰によって受け取るものです。

私たちは永遠のいのちを受け取っているにも関わらず、なかなかそれを信じるできません。イエス様ご自身が「信じる者は死ぬことがない」と言われた時ですら、人々はそれを信じるできませんでした。ラザロという人が死んだとき、イエス様はその姉妹であるマルタに次のように尋ねておられます。

「また、生きていてわたしを信じる者は、決して死ぬことはありません。このことを信じますか。」(ヨハネ 11:26)

しかし、マルタもその妹のマリヤも、そしてその場にいた弟子達も、誰一人このことを信じるできませんでした。その様子を見て、「イエスは涙を流された。」(ヨハネ 11:35)とあります。

永遠のいのちを信じないことは、イエス様を最も苦しめる不信仰です。復活する自分を受け入れましょう。私たちは救われたその瞬間、神から新しいからだをすでにいただいています。それが永遠のいのちであり、御霊のからだと言われるものです。

「まことに、まことに、あなたがたに言います。信じる者は永遠のいのちを持っています。」(ヨハネ 6:47 新改訳 2017)

「わたしの肉を食べ、わたしの血を飲む者は、永遠のいのちを持っています。わたしは終わりの日にその人をよみがえらせます。」(ヨハネ 6:54)

「それは子が、あなたからいただいたすべての者に、永遠のいのちを与えるため、あなたは、すべての人を支配する権威を子にお与えになったからです。その永遠のいのちとは、彼らが唯一のまことの神であるあなたと、あなたの遣わされたイエス・キリストとを知ることです。」(ヨハネ 17:2-3)

「イエスを知る」とは、イエス様と交わりができるということです。神は霊ですから、神と交わるには私たちも霊のからだが必要です。それが永遠のいのちです。その永遠の朽ちないからだをあなたはもう着せられていると聖書は教えています。

「血肉のからだで蒔かれ、御霊に属するからだによみがえらされるのです。血肉のからだがあるのですから、御霊のからだもあるのです。」(I コリント 15:44)

この御霊のからだを与えられているゆえに、私たちは神と交わることができるのです。つまり、御霊のからだは、肉の体が朽ちて滅んだ後に与えられるものではなく、今あなたはすでにそれを持っているのです。

「しかし神は、みこころに従って、それにからだを与え、おのおのの種にそれぞれのからだをお与えになります。」(I コリント 15:38)

日本語訳では、「お与えになります」と未来形のように書かれていますが、原語では「それぞれに霊のからだを与えられています。」と明らかに現在形で書かれています。

「死者の復活もこれと同じです。朽ちるもので蒔かれ、朽ちないものによみがえられ、卑しいもので蒔かれ、栄光あるものによみがえられ、弱いもので蒔かれ、強いものによみがえられ、血肉のからだで蒔かれ、御霊に属するからだによみがえらされるのです。血肉のからだがあるのですから、御霊のからだもあるのです。」(I コリント 15:42-44)

「終わりのラッパとともに、たちまち、一瞬のうちにです。ラッパが鳴ると、死者は朽ちないものによみがえり、私たちは変えられるのです。朽ちるものは、必ず朽ちないものを着なければならず、死ぬものは、必ず不死を着なければなりません。しかし、朽ちるものが朽ちないものを着、死ぬものが不死を着るとき、「死は勝利にのまれた」としるされている、みことばが実現します。「死よ。おまえの勝利はどこにあるのか。死よ。おまえのとげはどこにあるのか。」(I コリント 15:52-55)

私たちは神とともによみがえるので、死ぬことはありません。この「御霊のからだ」は「神の神殿」と表現されている場合もあります。それらは、すべて現在形で書かれており、私た

ちがすでに永遠のいのちを持っていることを表しています。

「あなたがたは神の神殿であり、神の御霊があなたがたに宿っておられることを知らないのですか。」（I コリント 3:16）

「ですから、私は、あなたがたに次のことを教えておきます。神の御霊によって語る者はだれも、「イエスはのろわれよ」と言わず、また、聖霊によるのでなければ、だれも、「イエスは主です」と言うことはできません。」（I コリント 12:3）

このことを信じることで、私たちは元気を失うことなく、平安になっていくのです。

「すべての懲らしめは、そのときは喜ばしいものではなく、かえって悲しく思われるものですが、後になると、これによって訓練された人々に平安な義の実を結ばせませす。」（ヘブル 12:11）

これが、私たちが目指すべき安息です。これが信じられるようになることが不安の解決です。永遠のいのちを信じられなければ、何も解決しません。

永遠のいのちとは、イエスを知ることです。不信仰と戦い、イエス様を知ることを目指し、平安の義の実を結びましょう。

キリストの苦しみとは、迫害や困難に出会うことではなく、神のことばを信じるができないことです。迫害されたとき、迫害する者を愛せない・・・、困難のとき、神が助けくださると信じることができない・・・、信じることができれば平安になれるのかもしれないけれど、それができないことが、自分自身を苦しめるのです。

その不信仰の中でも、もっとも私たちが苦しめるのは、死への恐怖です。「イエスを信じる者は死なない」「永遠のいのちを持っている」という神のことばを信じる事ができれば、その平安が、見えるところの困難を帳消しにするのですが、人はなかなかそれを信じる事ができません。

イエス・キリストは、そのような私たちが永遠のいのちを信じる事ができるように、十字架にかかって復活してくださったのです。イエス様が復活したように、自分も復活するのだと信じる事が、私たちの希望になります。

神のことばはすべてを解決します。それを信じられないとき、人は苦しみを覚えます。自分はキリスト・イエスに捕らえられており、罪が赦され、無条件で愛され、復活するという信仰をイエス様と共に捕らえることができるように求めましょう。あなたはすでに永遠のいのちを持っており、神の神殿が築かれ、御霊が宿り、神と共に生きる者です。そのことをますます堅く信じる信仰を目指して、生きていきましょう。